

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K02651

研究課題名(和文) 在学中にライフイベントを経験する医学生に対する学業の継続支援に関する調査

研究課題名(英文) Survey on support for continued learning to medical students experiencing life events

研究代表者

岸 美紀子 (Kishi, Mikiko)

群馬大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号：90396630

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 300,000円

研究成果の概要(和文)：国内外で発表された医学生または医師を対象とした論文を対象に文献調査を行った。実際に妊娠・出産・育児を経験している女子医学生を対象とした論文は少なく、女性医師を対象としたものがほとんどであったが、「時間不足」「経済的困難」「ストレスの多いコース」「メンターの欠如」等が阻害要因としてあげられた。また、支援制度に関する情報提供やメンターとなる医師との接点に高いニーズがありこれらは促進要因となると考えられた。これらの結果に基づき、実際に結婚・妊娠・出産・育児を経験した女子医学生を対象としたインタビューガイドを作成した。協力者が予定人数に達していないため、今後も調査を継続することとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医学生の大学生活は6年間と長く、在学中に妊娠出産等のライフイベントを経験する学生も少なくない。しかしながらライフイベントに関する研究の対象者はすでに社会に出ている医師や研修医、医学研究者であることが多く、医学生を対象とした研究に乏しいのが現状である。

本研究では在学中に女子学生が経験するライフイベントとして「結婚・妊娠・出産・育児」に焦点を合わせ、学業上のストレスを抱える中でライフイベントも経験する女子医学生が学業を継続するための促進要因と阻害要因について国内外の文献調査を行い、得られた結果を踏まえて実際に出産や育児を経験した医学生への調査を実施している。

研究成果の概要(英文)：A literature review was conducted on articles published domestically and internationally that targeted medical students or physicians. Few articles were written about female medical students who actually experienced pregnancy, childbirth, and childcare, and most of the articles were written about female physicians. "Lack of time," "financial difficulties," "stressful course," and "lack of mentors" were identified as disincentive factors. In addition, there was a high need for information on support systems and contact with physicians who could serve as mentors, and these were considered to be facilitating factors. Based on these results, an interview guide for female medical students who have actually experienced marriage, pregnancy, childbirth, and childcare was developed. As the number of collaborators has not reached the expected number, it was decided to continue the survey.

研究分野：医学教育

キーワード：医学生のライフイベント 学業の継続支援

## 1. 研究開始当初の背景

医学生の大学生活は6年間と一般的な大学生活よりも長期にわたる。疾患の原因解明や新しい治療法の開発といった医学・医療の進歩や、地域包括ケアが導入される等の社会システムの変化、患者安全教育の広がりもあり学生時代にこれらの知識をしっかりと身につけることが望まれている。この結果、学生時代に学ぶべき内容は増す一方であり、全国の医学生が学ぶべき基本的事項を整理した医学教育モデル・コア・カリキュラムにおいても、改訂の度にその内容は厚みを増している。このため、6年間の講義や実習のスケジュールは過密となっており、忙しさや心理的プレッシャーから学修の継続に不安を抱える学生は少なくない。

また、医学科では他学部と比べると年齢の高い学生も多いため、結婚や妊娠・出産という大きなライフイベントを在学中に経験する学生が毎年複数名みられている。中には入学前に結婚している学生もあり、妊娠・出産・育児と学業の両立についての悩みは切実である。

女性のキャリア支援は内閣府の男女共同参画室の取り組みを筆頭として充実が図られており、女性が働きやすい社会へと徐々に変化し、ワークライフバランスに関する啓発活動も活発に行われているが、このような取り組みが対象とするのは主に勤労女性であり、学生を対象とした支援については各大学が手探りで進めている状況である。

先行研究としてライフデザインとキャリア継続意識に関する調査<sup>1)</sup>において医学生にとって重要なストレス要因等の報告がなされている他、女性臨床医におけるライフイベント、就労、満足度に関する調査<sup>2)</sup>等がなされているものの、ライフイベントに関する研究の対象者はすでに社会に出ている医師や研修医、医学研究者であることが多く、医学生を対象とした研究に乏しいのが現状である。学業上のストレスを抱える中でライフイベントも経験する女子医学生が学業を継続するための促進要因と阻害要因について検討し、具体的かつ効果的な支援に反映させるために本研究を計画した。

## 2. 研究の目的

本研究では、医学生が学生時代に経験するライフイベントに焦点をあて、国内外の研究にもとづく文献調査を行い、ライフイベント経験時の学業継続に関する促進要因と阻害要因を明らかにすること、及び学生時代にライフイベントを経験した医学生を対象とした調査により、ライフイベント経験前後において心理状態やストレス要因がどのように変化したか明らかにすること、またその際の学業継続に必要な支援とその適切な提供時期は何かを明らかにすることを目的としている。

ライフイベントには、結婚、出産、進学、就職、住宅の購入、病気、事故等の人生に影響を与える大きな出来事が含まれるが、本研究では在学中に女子学生が経験するライフイベントとして「結婚・妊娠・出産・育児」に焦点を絞り検討した。

## 3. 研究の方法

ライフイベントが医学生の学業継続に与える影響についての国内外の研究について文献調査を行い、学業継続に対する促進要因と阻害要因を明らかにすることとした。文献調査で得られたライフイベント時の学業継続に対する促進要因と阻害要因をもとに質問項目をデザインし、学生時代に結婚・妊娠・出産・育児のいずれかを経験した女子医学生のインタビュー調査を実施することとした。

## 4. 研究成果

国内外で発表された医学生または医師を対象とした論文を対象に文献検索を行った。国内における女子医学生を対象としたワークライフバランスに関する研究<sup>3)</sup>では、「出産」及び「家庭との両立」に対して不安を持つ者が多く、卒業生女性医師の経験談や女性医師支援制度への情報提供に高いニーズがあるという結果であった。また、研究者らが実施した医学生及び医師に対する意識調査<sup>4)</sup>においても、出産・育児に対する不安は卒前卒後を通じて高かった。イギリスにおける研究<sup>5)</sup>では育児・妊娠中の医学生にとって阻害要因となるのは「時間不足」「経済的困難」「ストレスの多いコース」「社会的要因」であるとしている。本研究実施中に発表された女性医師に特有の課題に関するシステムティックレビュー<sup>6)</sup>では、組織レベルの課題として育児・妊娠中の医学生にとって阻害要因となるのは「時間不足」「経済的困難」「ストレスの多いコース」「社会的要因」「メンターやネットワークの欠如」「比較的融通の利かないスケジュール」「不十分な育児サポート」をあげ、メンターや出産育児の支援、家族休暇等がこれらの課題を解決する可能性があると報告している。医学生を対象とした研究は少なく、また将来の姿としての妊娠・出産・育児に対する調査が多かった。文献調査で得られた論文のほとんどは女性医師を対

象としたものであったが、女子学生が妊娠・出産・育児を経験する際に直面する課題には同様の傾向があるとして、以降の調査に用いるインタビューガイドを作成した。女子医学生のインタビューは半構造化インタビューとし、協力者を集めているところであるが予定人数に達していないため今後も調査を継続することとなった。

<引用文献>

- 1) 上田嘉代子、加茂登志子、佐藤康仁ら．女子医学生のライフデザイン展望とキャリア継続意識．医学教育 2010, 41(4): 245-254
- 2) 片岡仁美、関明 穂、川畑智子．女性医師のライフイベントを考慮したキャリア支援：岡山大学アンケート調査．医学教育 2016, 47(2): 111-123
- 3) 卒前教育におけるワークライフバランスに関するニーズ分析．石川由紀子, 牧野伸子, 山本さやか, 石川鎮清, 松村正巳．日本プライマリ・ケア連合学会誌 2016, 39(1):19-22.
- 4) 地域医療枠学生及び卒業生のライフイベントに対する意識調査．錦戸 彩加, 荒木 祐樹, 羽鳥 麗子, 岸 美紀子．医学教育 2023 54Supple 282
- 5) K. Khadjooi, P. Scott, L. Jones. What is the impact of pregnancy and parenthood on studying medicine? Exploring attitudes and experiences of medical students. J R Coll Physicians Edinb. 2012 Jun;42(2):106-10
- 6) Sherry S. Chesak, Kaia C. et.al. Challenges and Solutions for Physician Mothers: A Critical Review of the Literature. Mayo Clin Proc. 2021 Jun;96(6):1578-1591.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 錦戸 彩加, 荒木 祐樹, 羽鳥 麗子, 岸 美紀子
2. 発表標題 地域医療枠学生及び卒業生のライフイベントに対する意識調査
3. 学会等名 第55回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------